

# インクル

"Incl." by The Accessible Design Foundation of Japan (The Kyoyo-Hin Foundation)

The Periodical of Accessible Design

No. **102**

2016(平成28)年 5月25日

## 特集：調査--扉を開く鍵

### 目次 contents

- |  |    |                         |    |
|--|----|-------------------------|----|
| ■ 調査 -- 共用品の扉を開く鍵「不便さ・良かったこと」と「市場規模」調査 | 2  | ■ キーワードで考える「共用品講座」第92講  | 14 |
| ■ 良かったこと調査 -- 医療機関                     | 3  | ■ SPRINGシンガポールの皆さん来局    | 15 |
| ■ 調査に協力して～協力団体が期待すること～                 | 6  | ■ 第13回福祉まつり（東京都千代田区）    | 15 |
| ■ 共用品市場規模調査～調査の背景・意義と最新結果の報告～          | 8  | ■ 『誇り・味方・居場所 - 私の社会保障論』 | 15 |
| ■ 日盲連 女性協議会 研修会にて共用品講座                 | 12 | ■ 事務局長だより               | 16 |
| ■ ベトナム盲人協会訪問                           | 12 | ■ 共用品通信                 | 16 |
| ■ コミュニケーション支援ボード デジタル版                 | 13 |                         |    |

# 調査——共用品の扉を開く鍵「不便さ・良かったこと」と「市場規模」調査

## はじめに

製品開発・改良、新規サービスの創出・改良に欠かせないのは、「それを使う人」を知ることです。その「使う人たち」を知るための「調査」は、一昔前まで身内で行われていました。1981年の国際障害者年以降、「完全参加と平等」をテーマに、さまざまな製品やサービスに「人に優しい」というキヤッチコピーがつき始めました。ただ、誰を対象としているのか、どう優しいのかは曖昧なまま。その結果、購入しても使えない人が出てきてしまいました。「使う人たち」がはっきりしている福祉用具とは異なり、障害の有無、年齢の高低にかかわらず使える製品・サービスである「共用品・共用サービス」の調査はなされていませんでした。

1991年に発足した市民団体「E&Cプロジェクト」の最初の仕事は、目の不自由な人が感じている不便なことを知るための調査でした。

調査はまず、全盲の人が朝起きてから夜寝るまで、どのような生活をしているかを知るために、20家庭を訪問。次に300名以上にアンケートを実施しました。そのアンケート結果を報告書として多くの関係機関に配布した結果、いくつもの扉が開き始めました。

### ■開いた扉

一つめは、「不便さを解決する」という扉です。今までは個別に対応していたことを、会社外の目の不自由な人、その家族、研究者、各種専門家などが加わり一つ一つの解決策をだしていきました。

その解決策が、規格づくりという二つめの扉を開きました。共用

品に関する最初の規格は、JIS X6310「プリペイドカード」(1996年)で、以降37種類の国内規格ができ、共用品の普及に大きく貢献しています。

三つめの扉は、聴覚障害、車椅子使用者、弱視、妊産婦、高齢者、子ども、知的障害者らへの調査の発展です。

そして四つめは、良かったコトを知るという扉です。それまでの調査は、例えると「道に穴があいている」ことを知るものでした。指摘された関係者は、間を置かずに穴をふさげるようになりましたが、もっと通りやすい道であるには、と考えて実施したのが良かったコト調査(次ページ)です。この調査は、さらに次の扉を開ける大きな可能性を持っています。

五つめは、共用品の普及の様子を確認するという扉です。これは、1995年度から毎年実施して

る共用品の「市場規模調査」です。5千億円ほどだったのが、現在は3兆円近くに成長しています。この調査からも実に多くの扉が開いています。



## 良かったこと調査——医療機関

2年前から本格的に始めた「良かったこと調査」。初年度のテーマは「旅行」、平成26年度は「コンビニエンスストア」であった。平成27年度の調査は「医療」。医療機関において、「通院」と「入院」の際に、良かった「人的対応」と「設備」について、調査を実施し、報告書としてまとめた。

調査にあたっては、委員会を設立し、専門機関からは、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本看護協会、一般社団法人日本病院会などからの出席をいただき、助言を得て実施した。

### はじめに

障害のある人や高齢者、また日常生活を送る上で配慮が必要な人達においては、医療機関での人的対応あるいは設備等のあり方が精神的にも身体的にも影響を与えることがある。しかし実際にはどの点が良いか具体的な事例はあまり

収集されていない。そこで平成27年度は、「医療機関に関する良かったこと調査」を実施し、良かったことの声を収集した。今回の調査もこれまでと同様に、自由記入が多いアンケート調査を行い、534名から回答を頂いた。（内訳は図表1の通り）

図表1：回答者の障害及び疾病種別 n=534

全盲	99名	下肢障害	10名	発達障害	28名
弱視	53名	頭髄損傷	3名	精神障害	3名
ろう	35名	脊髄損傷	10名	認知症	11名
難聴	36名	内部障害	1名	高齢者	73名
盲ろう	7名	がん	28名	その他	4名
言語障害	5名	リウマチ	47名	障害はない	19名
失語症	1名	パーキンソン病	37名	無回答	10名
上肢障害	12名	知的障害	2名		

医療機関に通う頻度は、回答者の約半数の人が、「一か月に一度」と答えた。また医療機関には、「一人で行くことが多い」と約7割の人が回答し、2割強が「家族と行くことが多い」と回答した。

今回集計した自由回答の総数2959件を、それぞれ該当する場面や内容別に整理し、なるべく自由回答の良さを損なわないように分類を行った。今号では様々な場面での自由回答を一部ご紹介する。（本人以外の方からの回答も含む。）

### 1 通院で良かった「人的対応」

#### 【予約】

- ・初診時に、保護者同伴にて「知的障害がある」との説明をしたところ、次回以降は本人のみ来院でも対応すると言ってくれた。（知的障害）
- ・診察券の番号が分からなくても、生年月日を言えば受け付けてくれる。（全盲）

- ・体調が悪いという意味を障がいの内容から理解していて、急な

予約変更もていねいに対応してくれる。（精神障害）

#### 【受付】

- ・待っている間に具合が悪くなった時、すぐに気付いて看護師さんに連絡してくれ対応が早かった。（がん）
- ・長い来院ですから、受付の方とも懇意になり、ていねいな対応です。（リウマチ）
- ・私の言葉が聞き取りにくいと、メモ、ペンをすぐに出してくれる。（言語障害）
- ・マスクを外してくれる。（ろう）

#### 【待合】

- ・患者で混んでいても問い合わせには笑顔で受け答えしている。（パーキンソン病）
- ・看護師さんが知らせてくれる。（盲ろう）
- ・通常は番号の画面表示の呼び出しだが、名前を呼んでくれる。（弱視）
- ・空いている席を教えてくれる。（全盲・弱視）

#### 【診察】

- ・上着の脱ぎ着を手伝ってくれる

る。(上肢障害)

- ・医師だけでなく看護師の方が必ずいて補助してくれる。(高齢者)
- ・あらかじめ、認知症であると伝えてあるため、分かりやすい言葉や常に声掛けをしてもらっている。(認知症)
- ・本人の話聞いてくれるそうです。(知的障害)

#### 【検査】

- ・少し大きく、ゆっくりとした声で話してくれます。(難聴)
- ・検査のカップやコップなど小さな場所に名前などを書かなくてはいけない時に、お願いしたら快く書いてくれた。(弱視)

#### 【支払】

- ・指が不自由なため、財布ごと渡して必要な紙幣、小銭を取り出してもらい、お釣りなどもいれってもらう。(頸髄損傷・脊髄損傷)
- ・金額を筆談や電卓で表示して見せてくれる。(難聴)
- ・待ち時間が短い。(パーキンソン病)

#### 【相談】

- ・私の子供が通う病院では、主治

医が本人に寄り添い本人の気持ち第一に考えてくれます。本人が「いやだけど納得すること」を考えてくれます。(発達障害)

- ・通院が出来ない場合や急な応対をしてもらいたい時でも、診察時間内であれば電話でも相談に乗ってくれる。(精神障害)
- ・困ったことがあったらいつでも連絡を、と病院宛(院長)のメールアドレスを教えてください。(認知症)

#### 【売店】

- ・セルフ式の食堂でも、職員が配膳してくれる。(下肢障害)
- ・売店の職員の方も財布からお金を出すのに長くかかる私を嫌な顔もせず、待ってくれます。(パーキンソン病)

- ・ペットボトルのふたを開けてくださった。(上肢障害・リウマチ)

- ・店員さんがメニューを読み上げてくれたり、ほしい商品を探してくれたり親切。(弱視)

#### 【薬局】

- ・見えない人に薬をどのように説

明したら良いか分からなくても、どのようにしたら良いか尋ねてくれたことで「普段、薬が分からなくならないための工夫」に協力してくださいました。2回目以降は「前回と同じように準備させていただきますが、よろしいですか？」とていねいな対応をしてくださったお蔭で助かりました。(全盲)

#### 2 通院で良かった「設備」

- ・病院外の薬局だが、足が痛い時など待っているところまで来て薬の手渡し支払いもしてくれる。(リウマチ)

#### 【入口】

- ・階段が低いことと、バリアフリーもあり、自動ドア。(内部障害)
- ・誘導用ブロックがあるので歩きやすい。(盲ろう)

#### 【待合室】

- ・一律のパイプ椅子が並んでいるのではなく、柔らかいソファや硬い椅子など各種あるので、その日の体調で選べる。(リウマチ)
- ・膝が悪いために、膝をあまり曲

げないで座れるように椅子が置いてありました。良く分かっていると思います。(上肢障害)

#### 【通路】

- ・どの科行きテープ(色も別々)があるのでわかりやすい。(ろう)
- ・診察室の扉がすべてスライド式になっていて、ドアにぶつかる心配がなく歩けました。(全盲)

#### 【表示】

- ・主な表示が大きな文字で目の高さにある。(弱視)
- ・大きくて見やすい。(高齢者)

#### 【トイレ】

- ・個室内の操作ボタンに点字表示がある。(全盲)
- ・誘導音声ガイドがある。(全盲)
- ・引き戸で開けられスペースが大きい。(リウマチ)
- ・身障者用トイレがある医院は介助に入りやすいので助かる。(パーキンソン病)

#### 【診察室】

- ・ドアの取っ手がドアノブではなく、手すりのような短いが付いていて楽に開けられる。(リウマチ)

・付添人が座る椅子があらかじめ用意してあった。(全盲)

・医師の前の壁に使う薬のサンプルがたくさん貼ってあり、投薬の説明がされるのでわかりやすい。(ろう)

#### 【検査室】

・子供達が怖がらないように、壁画も工夫され、好きな音楽を流してくれたりする。(がん)

・人間ドッグの時、血液検査で説明カードを見せてくれる。(難聴)

#### 【売店・食堂】

・売店は大好きな自販機があり良かった。こだわりが強いので好きなジュースを集めていた。(発達障害)

・院内に焼き立てパンがあり、その場で食べられるようになっていた。(認知症)

#### 【駐車場】

・広く使いやすい。(言語障害)  
・入口近くに障害者用駐車スペースがあるので助かる。(認知症)

入院で良かった人的対応や設備については、通院の場面と共通す

るものも多い。

ここでは入院に特化して一部をご紹介します。

### 3 入院で良かった「人的対応」

#### 【入院手続き】

・私が全盲なので、入院中はどのような配慮をして欲しいか尋ねられた。(全盲)

・病棟内でほぼ説明して下さり、制度利用等必要書類についてどこで対応するかまで説明して下さった。受付へ行くとき書類提出のみで済んだ。(がん)

#### 【手術】

・不安を和らげるために周りの様子もコミュニケーションボード(筆談)で記入してくれた(ろう)

・前もってメモを準備してくれていて、「今から麻酔しますよ」とか、「痛い時は手を挙げて下さい」等、必要なことは前もって知らせてくれて助かりました。(ろう)

#### 【入院生活】

・いつも困っていることが無いからこまめに聞いてくれました。患者の声に耳を傾けてくれました。(パーキンソン病)

・傷の回復とともに心の回復にも配慮してくれ、長くなっても嫌ではなかった。(認知症)

#### 【シャワー・入浴】

・シャワーの使い方でなく、脱衣場・シャワールームの中の細かな配置まで説明してくれました。(全盲)

### 4 入院で良かった「設備」

#### 【病室】

・テレビの位置が横でなく、ベッドの正面で壁に埋め込まれていたのが首が楽でした。(脊髄損傷)

#### 【トイレ】

・病室内にトイレがあり、移動距離が短くて安心だった。(下肢障害)

・手すりが付いていて良かった。ドアではなく、カーテンのトイレがあり良くわかっていると思います。(上肢障害)

#### 【シャワー・入浴】

・膝の人工関節設置手術をしたとき、早い段階でぬれないよう処

置をして、椅子に座ったままシャワー。シャワーの位置が良く、看護師の手を借りなくても一人でシャワーを楽しめた。(リウマチ)

#### むすびに

今号では、障害特性別に自由回答を紹介したため、それぞれの良かったことが各身体的特性固有のものとして捉えられそうであるが、そうではない。例えば、「分かりやすい説明」や「丁寧な対応」は身体的特性に関わらず、多くの方が良いと感じている。また設備面でも、「建物入口のスロープ」や「バリアフリートイレ等」は良いと回答している。

この良かったこと調査からは、「身体的特性に適した個別の人的対応や設備」と、「身体的特性に関わらず共通性がある人的対応や設備」の二つの特徴がつかめる。これらの結果が、医療機関だけでなく、多くの応対場面や設備設置に際して参考となれば幸いである。

もりかわみわ  
森川美和

## 調査に協力して 協力団体が期待すること

今回、良かったこと調査に協力をいただいた各障害者団体・支援団体、障害者関連企業、高齢者関連企業、がん研究センターの方々から、「今後の良かったこと調査に期待すること」として、意見や感想をいただいた。最初に、「良かったこと調査」を実施した際に委員長を務めていただいた鳥原光憲さん、続けてご協力をいただいたの皆さんからのコメントを紹介する。(氏名50音順)

### 大きな元気に

(公財)日本障がい者スポーツ協会

鳥原光憲さん

今、多様性を受け容れるインクルーシブな社会への変革が強く求められています。

人種・宗教・性別・障害の有無など、多様な人びとのニーズに分け隔てなく応えられる社会こそ、真の豊かな社会と言えます。

こうした様々なニーズに応える

こと、すなわちサービスには、提供者の絶えざる質の向上への努力が必要です。

「良かったこと調査」は、不便さの解消に止まらない、より高いレベルのサービスの追求そのものであり、調査結果の一つ一つを知ること、大きな元気が湧いてきます。

### 今は働ける高齢者の立場で

参加して

(株)かじわん

有我昌時さん

高齢者といっても、まだ働ける立場で参加させてもらった。したがって、ある意味、贅沢な感想になっている。だが、身障者の方々の重度の病に苦しんでおられる方々のご意見は、切実だった。

この先老齢化が進めば、今は元気な高齢者にもこの調査項目の全てが降りかかってくる。そのためにも、この時点でのこの調査は有難い。そして、改めて「何かお困りのことはありますか？」と一言かける大切さを感じた。

### 当事者も、もっと気づきを

(一社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

小川光彦さん

旅行、コンビニに続いて3回目の「良かったこと調査」。中途失聴・難聴者の立場では、「よくなかったことを書きにくい」という従来のアンケートと違い、逆に「プラス面は何だったか？」と考えることで、よい気づきもあったようです。ポジティブ思考と、もっと直視すべき現実とのバランス。もっと多く「よかった！」に気づけるよう変化を見つけていきたいです。

### 門外漢でも役立つ調査

(株)高齢社

幸山明雄さん

今回、医療機関に対する良かったこと調査で、高齢者たちの意見を集めました。私の周りにいるのはどちらかというと元気な高齢者たちですので、あまり有効な意見を集められないのではと思いましたが、結果的には貴重な意見もあり、少なからずお役に立てたので

はないかと思えます。良かったこと調査は、門外漢でも感心することがあり、すぐ役に立つと思います。

### 良かった事例をマネする

NTTクラリティ(株)

小高公聡さん

当社は230名の障害者が働くNTTの特例子会社です。普段から様々な障害者が共に働いているため、アンケートもそのような視点から回答できたのではと思っています。

当社では企業等で障害理解を目的とした研修を行っていますが、「合理的配慮とは具体的に？」といった質問をよく受けます。その答えが、この調査結果に凝縮されています。サービスの皆様には、これらを参考にまずはマネをするところから始めていただければと思います。

### 無限の可能性

(社福)日本点字図書館

田中徹二さん

不便さ調査に比べて、良かったこと調査は、調査対象者の印象を良くする上で効果があります。仕事に意欲を持ち、質の向上に努力している人にとって、その良い点を見てもらうことは、さらに意欲を高めるとともに、向上心を刺激するという効果です。人に限らず企業にとっても同じことが言えます。これまでコンビニや病院などについて調査してきましたが、障害者の生活の中で、良かったことに接する機会は無限にあり、さまざまな分野で継続調査していくことを期待します。

### 医療機関があることに感謝

(公社) 全国脊髄損傷者連合会

妻屋明さん

ずいぶん前から医療機関があることは当然だと思っていました。しかし、改めてこの調査に関わり心から感謝するという大切なことを忘れていたと反省しています。思い返せば今から42年前に重傷を負い、何も判らず医療機関に運び込まれ、以後2年半もの長期

にわたり治療とリハビリを受け、車いすで社会復帰することができました。

お世話になった沢山の医療スタッフと医療機関に改めて感謝。

### 優しい周知方法に期待

(株) 高齢社

中村みち子さん

障害のある方に接する良い方法を知りたかったので、とても勉強になっていきます。『親切・丁寧な対応は当たり前』という事でも、「障害のある方」が「利用される場所」で良かったと感じた事を、具体的に知る事ができて良かったです。

コンビニ調査のように、優しい周知方法に期待しています。一般社会では、発信しにくい事も、せめて利用される場所だけでは発信しやすく、示しやすい環境が広がれば、お互いに繋がれますね。

### 初めて参加して

NPO法人Wing Pro

新堀和子さん

私どもの参加は、お願いの仕方や時間などの調整で、ご迷惑をおかけしましたが、4か所の親の会の協力で回答を集めることができました。

発達障害者の歴史は浅いせいか、若いこともあり、多くの項目に答える人は少ないように感じました。しかし、合理的配慮や差別解消法を考えた時、社会に向かって理解を求める力も大切で、その為にもアンケートに取り組む姿勢は、本人の社会性を育てることに役立つかと感じています。

### グローバル化のヒントに！

(社福) 国際視覚障害者援護協会

芳賀優子さん

私たちの団体は、日本の盲学校に留学している外国人視覚障害者を支援しています。留学生たちにもこの調査に参加してもらっていますが、日本人とは違う視点で次々と繰り出される彼らのコメントは、まさに「目からうろこ」。また彼らが日本の「共用品」を知り、国籍を越え、共に前向きに協力していくことの大切さを学ぶ

とても良い機会ともなっています。留学生たちも協力できるような、身近なテーマの「良かったこと調査」を今後も期待しています。

### 医療機関をより良くするための活用を

(国研) 国立がん研究センターがん

対策情報センター

若尾文彦さん

様々な障害を持たれた方を含む患者さん方が、医療機関における人的対応や設備などに関して、良かったと感じたことについて、外来や入院の場面ごとに、多くの意見を収集することができた今回の調査結果は、医療機関をより良くするための、大変貴重な情報源であると考えます。この結果を多くの医療関係者が知って、改善に繋がっていただくことで、全国の医療機関に「良かったこと」が広がることを期待します。



「医療機関に関する良かったこと調査報告書」

# 共用品市場規模調査 ～調査の背景・意義と最新結果の報告～

日本能率協会総合研究所 ヘルスケア研究部

しのぎたつや  
凌竜也

## 背景と対象の選定過程

共用品市場規模調査は、共用品（アクセシブルデザイン製品）の市場動向（出荷額ベース）を把握する国内唯一の定点調査として位置づけられ、これまでに19回（調査データとしては20年度分）実施してきた。1996年、経済産業省（当時は通商産業省）の委託事業としてスタートし、以来継続して現在に至るまで共用品推進機構によって実施されている。

調査開始時には、調査の目的、共用品を含む周辺の概念の分類と定義、市場規模の調査対象品目の範囲等について、有識者による委員会を組織しそこでの検討を通じて、品目と配慮点を決定してきた。調査開始当初より掲げている調査実施の目的は、左記の3つである。

- 1 共用品の社会全体における趨勢や課題の把握
- 2 産業界各分野、特に共用品／共用サービスを開発しようとする各分野の事業者や

自治体・行政に向けた基礎情報の提供

- 3 共用品／共用サービスに関する、社会一般に対する普及啓発に役立つ基礎情報の提供

また調査の前提として、共用品の概念を図表2のように整理し、このうちⅡ～Ⅴを、共用品の範囲とした。さらに、この中

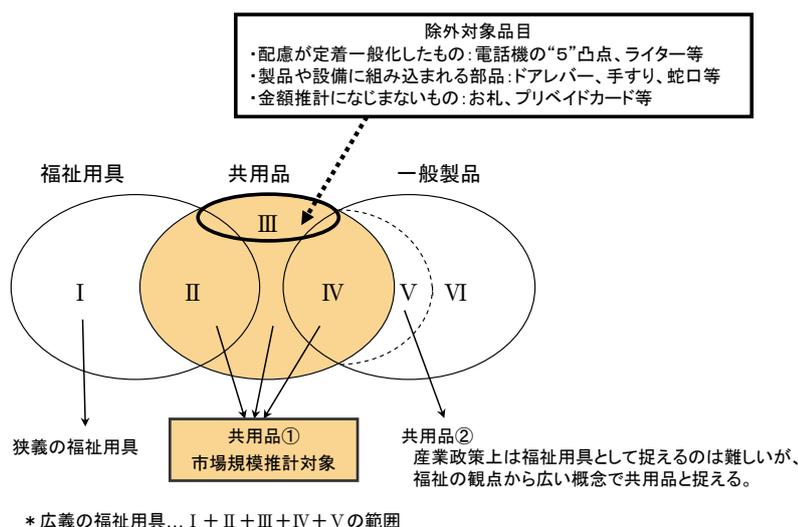
分類	区分	定義
福祉用具がもと	I 専用福祉用具	特定の障害や高齢による特定の機能対応の福祉用具で機能障害のない（一般の）人には利用されない製品
	II 共用福祉用具	もともと専用の福祉用具であったものであるが、特に意図した再設計・リデザインをせず、一般の利用にも供する製品
	III 共用設計製品	もともと専用の福祉用具であったものを一般用途にも普及するように再設計リデザインされた製品
一般製品がもと	IV バリア解消製品	一般製品をベースに高齢や障害のある人が利用上バリアとなる部分を解消するための部分的な配慮上の設計・デザインを施した製品
	V ユースフル製品	設計デザインとして特に意図せず、高齢や障害でも使いやすい製品
	VI 健常者専用品	特に高齢や障害者のために使いやすいでない製品

【図表2：「共用品」からみた製品の分類と定義】

で、調査対象とする品目について図表3のように設定をした。

この定義に基づき、調査対象とする具体的な対象品目と配慮点について委員会で議論を重ね、次ページ図表4のように対象品目を決定してきた。

なおここに示される品目は、配慮点の特性に応じて、大きく「製品自体が共用品に位置づけ

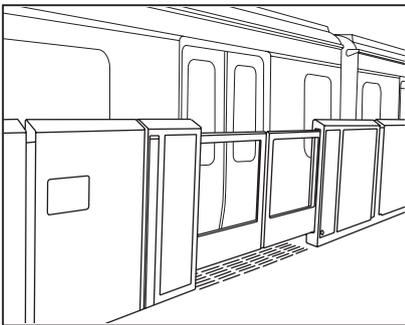


【図表3：市場規模調査対象範囲について】

られるもの（温水洗浄便座、ホーム自動ドア（図表5）等）「製品の包装・容器に共用化配慮がされているもの（缶ビール、シャンプーン・リンス、家庭用ラップ等）」「製品本体の一部に共用化配慮がなされているもの（家庭用電化製品各種はじめその他の共用品）」の3つに分類できる。

調査が果たしてきた役割

本調査は19年間の継続調査を通じ、前述の通り20年分の調査データを蓄積している。開始当初の1995年度時点と比較し、2014年度時点（結果の詳細は後述）では、共用品の市場規模は5倍以上に拡大しており、限られた品目の出荷額だけで見ても、共用化配慮に関する産業規模の進展を確認することができる。自社の製品やサービスの共用化配慮を強化しようとする企業を後押しすることはもちろん、広く一般社会に対しても共用品の存在を知らせる上で、一定程度寄与してきたと考えられる。



【図表5：駅ホーム用自動ドア】

配慮分類	品目分類	品目	配慮点	
製品本体の配慮	一般機械器具	エレベータ	階数スイッチに点字表示されている、階数表示を音声で行う、階数スイッチが車椅子でも使用可能な位置にある	
		エスカレータ	ステップがフラットになり、車椅子の使用が可能	
		ホームエレベータ	階段での上下移動を解消している	
		自動販売機	コイン投入口とボタンが低い位置になっており、車椅子でも操作可能、表示部に点字	
		駅ホーム用自動ドア・自動改札	電車の扉の位置に合わせてホームに設置されている（自動ドア）、車椅子でも通れるように幅を広くしてある（自動改札）	
		ATM・CD機	液晶表示ではなく、機械式操作ボタンで識別でき、音声で応答がある、点字表示など	
		温水洗浄便座	用便後温水で洗浄、上肢が不自由でも清潔に用便可能	
		複写機	車椅子でも操作しやすいようにディスプレイ部の傾斜、低位置化など	
	電気機械	家庭電化機器	点字や凸表示等がある、点字またはカセットテープの取扱説明書がある、操作方法／操作結果や状態が音や音声によって表示される、文字放送を受信できる、等	
		音響機器		
		映像機器		
		情報・通信機器		
		照明器具	器具が昇降し、電球の取り替えが容易	
	輸送用機械器具	乗用車（座席シフト）	助手席、後部座席が車椅子で乗りやすいように回転・移動する	
		バス（低床）	車椅子や高齢者でも乗りやすいように乗降部や床を低くした	
	精密機械	時計・はかり	凸表示や凸文字表示があり触ってわかる、音声表示がある、数字表示部が見やすいよう大きな文字	
	金属製品	ガス器具	押しボタンタイプで簡単操作、点字表示、点字取扱説明書がついている、音声や光で作動状態を知らせる、立消え安全装置がついている	
	住宅設備	住宅設備	段差解消・手すりの設置・腰掛けるの出入り容易な浴槽（浴室ユニット）、洗面台の昇降可能など車椅子での利用可能な設計（洗面化粧台）、カウンターの高さ変更が容易・上部棚を手動や自動で下げられる設計（システムキッチン）	
	その他	机（天板上下）	天板が昇降できるもの	
		玩具	操作部等に凸表示がある、色の区別が手触りでもわかるようになっている、点字シールが添付されている、電話等の玩具で「5」に凸表示がある、音が出ていることが光など音以外の方法で確認できる、筆談でのコミュニケーションができる、手で触っても崩れたりずれたりしない（盲導犬マーク、うさぎマークの玩具）	
		ケトル	沸騰を蒸気の笛で知らせる	
		その他（家庭用ミシン、触知図、大活字書籍等）	糸かけ、ダイヤル式、スピードが遅い等操作が容易にできる（家庭用ミシン）、凹凸がついており手で触ってわかる地図（触知図）、見やすい大きい活字を使った書籍（大活字書籍等、96年度～）	
	容器・包装の配慮	食料品	ビール・酒	上部に点字でビールあるいは酒と表示、非アルコール飲料と区別
			シャンプー・リンス	シャンプー容器側面にギザギザがあり、リンス容器と区別できる
		化学工業品	医薬品	パッケージに点字がついている、点字の取り扱い説明書が付いている
			家庭用ラップ	家庭用ホイルと区別するために凸マークがついている

【図表4：調査対象品目と配慮点】

また市場規模調査の結果を、金額のみならず、品目の配慮点を毎年提示することで、この配慮点を持った製品の存在の認知の向上にも役立ってきた。

### 最新の調査について

以下では、2014年度の出荷額を対象とした最新の調査結果について述べる。調査は2014年12月から2015年3月にかけて実施した。共用品製造企業へのアンケート調査に加え、公的統計、業界団体調査統計等も活用しながら推計値をとりまとめた。

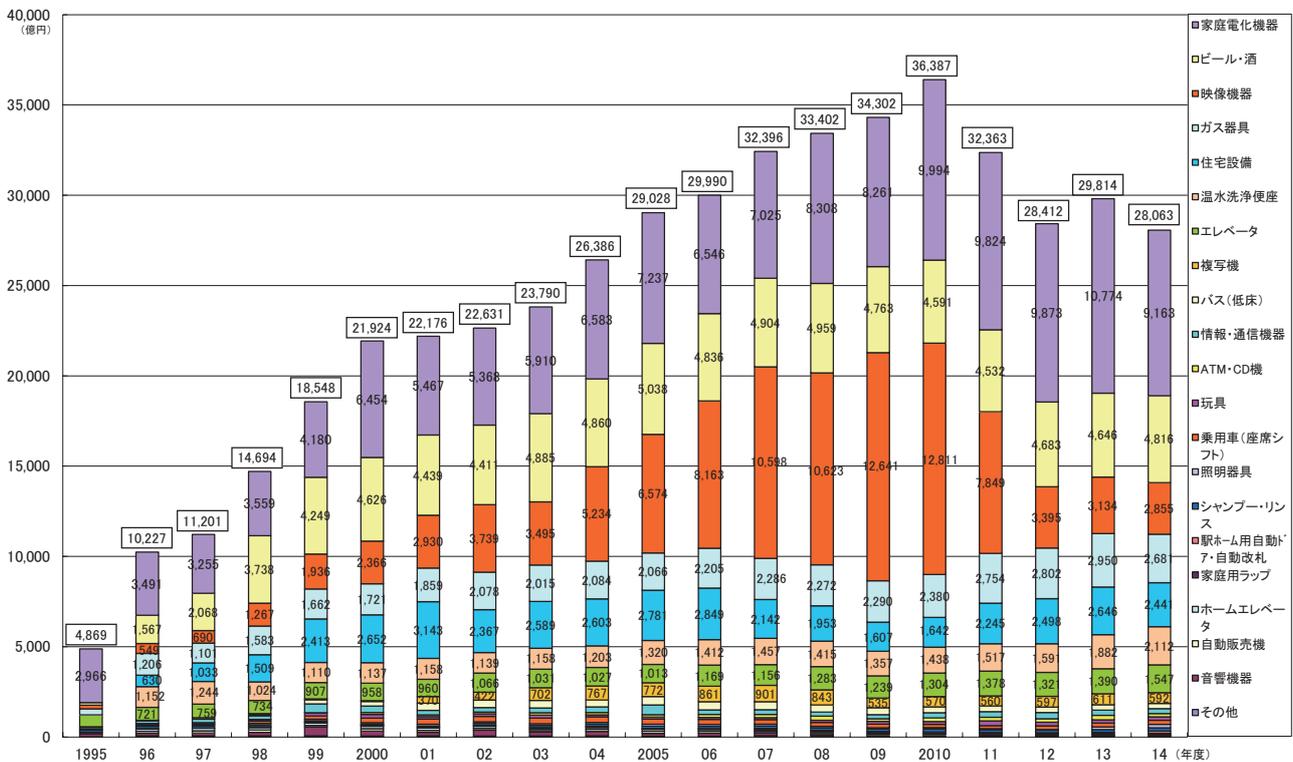
なお例年同様、「日本照明工業会」「日本玩具協会」「ビール酒造組合」等の業界団体の協力も得ている(図表6)。このほか家庭電化機器、音響機器、映像機器、情報通信機器の4品目については「家電製品協会」より別途推計結果についてコメントをいただくなどの協力も得ている。

調査種別	(明細)	配布数	回収数	回収率
個別企業調査	—	139社	57社	41.0%
業界団体調査	日本照明工業会	14社	14社	100.0%
	日本玩具協会	19社	9社	47.3%
	ビール酒造組合	5社	4社	80.0%
合計		177社	84社	47.4%

【図表6：アンケート調査の配布・回収状況】

### 全体動向の分析

調査対象とした各品目の合計値にみる、2014年度の共用品市場規模金額は、2兆8063億円と推計され、前年比で▲5.9%(1751億円)減と、2年ぶりの減少となった(図表7)。



【図表7：1995～2014年度の共用品市場規模金額の推移】

全体金額を減少に導く最も大きな原因となったのは、品目別の出荷額で2011年度よりトップを占める「家庭電化機器（9163億円…▲15・0%、1611億円減）」の大幅な減少である。

この背景には、前年度の消費増税前の駆け込み需要の反動があり、ルームエアコン、電気冷蔵庫、電気洗濯機等の主要品目が軒並み出荷を減らしたことが要因となった。

また「ガス器具（2681億円…▲9・1%、269億円減）」「住宅設備（2441億円…▲7・7%、205億円減）」も出荷額を減らしたが、これらについても同様の影響で、住宅着工件数が減ったことが要因と考えられる。

一方、主要品目の中で「ビール・酒（4816億円…3・7%、170億円増）」はわずかながら出荷額を伸ばした。

ビール系全体での数量の縮小傾向は変わらないが、発泡酒で

健康機能（糖質ゼロ、プリン体ゼロ等）を打ち出した製品が投入されて出荷額を伸ばすなど、金額ではほぼ横ばいで推移する一方、ビール系以外の飲料が堅調に伸びたことで全体でもプラスとなった。

このほか、2013年度からLED製品が集計に加わり大幅に出荷額を伸ばした「照明器具（187億円…24・7%、37億円増）」が、引き続き2014年度も出荷額を伸ばした。

#### 今後の発展に向けた課題

本調査では、定点調査としての意味合いから、開始以来、各品目の配慮点の定義は変えていない。そうした中で「家庭用ラップ」「シャンプー・リンス」「ビール・酒」「ガス器具」等に代表されるように、配慮点がほとんどの製品に普及し「当たり前」となっているものも多い。本来であれば、利用者ニーズの進展にあわせて共用化配慮は「より高いレベルの配慮」を目指して

進化させていくべきと考えられるが、既に当たり前となった配慮だけが市場規模として発信され続けると、その進化の歩みを遅くしてしまう可能性も否定できない。

また調査開始当初は、出荷額の伸びが共用品の普及状況を反映していたが、当初の配慮点が業界の標準となった品目が増えるにつれ、共用品市場規模は品目全体の市場規模の趨勢と強い連動を持つようになってきた。結果として、主要品目の景気の浮沈に大きく左右されるようになり、出荷額が伸び悩む局面では共用化配慮が後退したような誤解を与える状況も見受けられる。もちろん共用化配慮が進んでいない品目も依然として多く、これらの産業に対する啓発は重要であるが、共用化配慮の進展度を出荷額で訴求することが、より難しくなってきたことは間違いない。

一方、品目構成に着目すると、ここ10年以上、入れ替え等

は実施していない。この間に携帯電話やスマートフォン、文字情報を提供する電車車両等、いくつかの候補が存在した。しかし、それぞれについて、詳細な議論を重ねてはならず、市場規模出荷額に与える影響も大きいため、現在まで追加をするに至っていない。

今後こうした新たな品目に関する検討を実施する必要がある。あわせて、市場規模調査の目指す方向を改めて明確にした上で定点調査を継続させるとともに、たとえば品目別の普及度について、出荷金額とは別に新たな調査を実施する等、共用化配慮の進展にあわせた新たな調査体系の構築が望まれている。詳細は左記のWebサイトよりご覧いただきたい。

([http://kyoyohin.org/ja/research/pdf/report\\_of\\_The\\_ADproducts\\_market2015.pdf](http://kyoyohin.org/ja/research/pdf/report_of_The_ADproducts_market2015.pdf))

## 日盲連 女性協議会 研修会にて共用品講座

昨年11月、女性協議会の前田美智子さん（事務局長）から、同協議会の研修会での、共用品についての講座の依頼をいただき、本年3月14日、約200名の方に對して行った。

社会福祉法人日本盲人会連合の理事会の下にある女性協議会には、全国約6000人の視覚に障害のある女性が加盟し、福祉の向上、バリアフリー社会の推進に努めている。また、議論を繰り返して毎年その改善希望点をまとめ、厚生労働省等に陳情書を提出する形で積極的な提言を行っている。

共用品講座では、左記の流れで共用品・共用サービスについて話をさせていただいた。

- 1 不便さを解決した製品の紹介
- 2 不便さ調査・便利さ調査の意味
- 3 便利さ製品づくりへのルールづくり
- 4 私たちにできること

当日は、普段使用するパソコン、プロジェクターを使用しない形の

講座となり、その分、普段さらっと画像を見せて終わる部分も言葉により補うことを心がけた。話し終わった後の3名の方の質問は以下のようなものであった。

・はがきの左下の半円の切り欠きは、すべてのはがきに付けることはできないか？

・シャンプルー・リンスの詰め替え容器に識別を触ってできるようできないか？自分は、シャンプルー・リンス容器の硬さで識別しているが。

最後は、大学などで視覚障害のある人の日常生活の話聞いてもらう機会がもつとあったら良いのでは？という提案で、どの内容も的確な指摘であった。

最後に、新城市育子会長より、自分たちの聞きたかった内容の話であったと、大変嬉しい感想と、謝辞をいただいた。閉会后に、新城市長、前田事務局長と話し、今後情報共有をしていくことで、連携を強化していきたいとの依頼を受け、快諾させていただいた。

ほしかわやすゆき  
星川安之

## ベトナム盲人協会訪問

共用品推進機構は、昨年度から、共用品の普及を目的にした国際的な展示会・イベントを実施しています。昨年度は台湾で行いましたが、今年度はベトナム・ハノイでの実施を計画しています。昨年、視覚に障害のある人に対する不便さ調査の際に、ハノイにあるベトナム盲人協会と共に調査準備やアンケート処理作業等を連携して行った経緯があります。

今年度、共同でイベント開催を検討するため、4月20日、同協会



を訪問しました。翌日は、同協会に付属する教育センターで、イベントの詳細についてお互いの意見を出し合いました。

合意したのは、イベントを通じてベトナムの人たちに視覚に障害のある人たちの普段の生活、社会参加、教育について知って、理解してもらおうというイベントの趣旨。不便さ調査結果の回答数も155名と十分なインパクトがあり、この調査結果をわかりやすく伝えることでも、イベントに参加した人たちに関心を持ってもらうことができると思っています。

かなまるしゅんこ  
金丸淳子

## コミュニケーション 支援ボード デジタル版

(公財) 交通エコロジー・モビリティ財団

竹島恵子  
たけしまけいこ

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団(エコモ財団)は、ソフト面のバリアフリー化として、障害のある方々や高齢者、日本語が理解できない外国人などが交通機関を利用する様々な場面においてコミュニケーションを円滑に行うためのサポートツールとして「コミュニケーション支援ボード 紙版(以下紙版)」を共用品推進機構と共同で平成19年度に作成しました。現在までに障害のある方々や交通事業者、観光案内所などに約1万7000部配布しています。

さらに、既にお使いいただいている方々から、タブレットやスマートフォンなどでも使用できる電子版のご要望を多くいただきました。平成27年度に交通事業者、当事者団体の方々へのヒアリング

やアンケート調査を実施し、検討した結果、交通事業者など案内をする方と、障害のある方や外国人など案内を受ける方でニーズが異なることがわかりました。

そこでまず、案内をする方に焦点をあてた「コミュニケーション支援ボード デジタル版(以下デジタル版)」を時事通信社とヴァル研究所と共同で作成し、公開しました。

デジタル版は、駅の窓口などでよりスムーズなコミュニケーションをサポートするため、問い合わせの多い「場所」「落し物」を最初のページに設定することによりタップ回数を少なくするようにしました。また、日本語を含めて19カ国語に対応しています。

アプリではなく、通常のインターネットと同様のブラウザ対応なのでダウンロードやアップデータの必要はありません。また、お使いの端末ごとにカスタマイズができます。他の図記号や写真に変更したり、言葉の編集も可能です。その他、地図や関係するペー

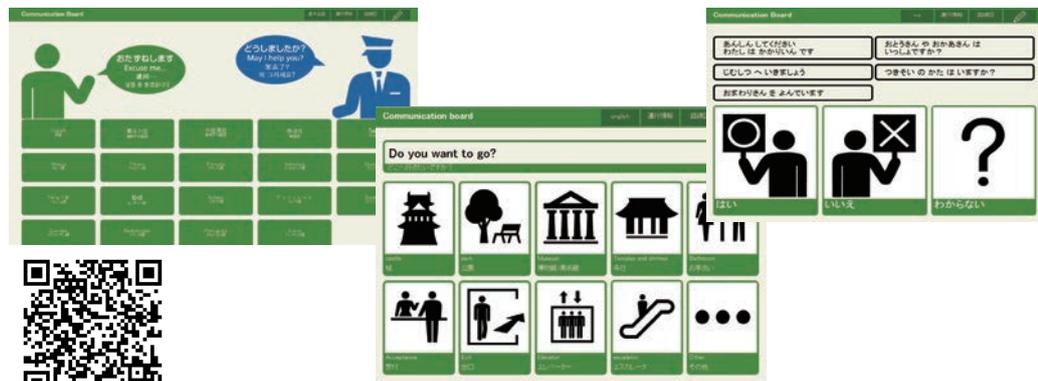
ジのリンクを変更することができます。

障害のある方とのコミュニケーションに特化したページとして「基本会話」と「筆談」があります。「基本会話」では、知的障害のある方などを想定し、あらかじめ簡単な会話にし、相手の方が自分の意志を伝えるために「はい」などを選べるようにしました。聴覚障害のある方や日本語のわからない外国人の方にもご利用いただけます。

2020年には東京でオリピック・パラリンピックが開催されます。海外からのお客様が増加する中で、コミュニケーションのサポートツールとして、このデジタル版や紙版がお役に立てばと思っています。

デジタル版は、「ご利用に関するルール」や「利用ガイド」をお読みいただければ、どなたでも自由にご利用いただけます。また、もしオリジナルの機能やページの追加などをご希望される場合は、ご相談ください。

より使いやすくしていくためにも、ご利用いただいた上での感想やご意見をお寄せいただければ幸いです。



[http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/comboard/comboard\\_top.html](http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/comboard/comboard_top.html)

キーワードで考える「共用品講座」第92講  
「社会の要請と共用品（その9）格差と社会的企業の機会」<sup>2</sup>

後藤芳一  
ごとうよしかず



後藤芳一（ごとうよしかず）教授、初製薬会社（製薬会社）を経て、2012年からは「社会の要請と共用品」をテーマに、2011年から2019年まで、星川安之（ほしかずやすゆき）博士（経済学）と共同で、社会の要請と共用品に関する研究を進め、2019年に「社会の要請と共用品」をテーマにした書籍を出版した。

社会の課題

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲

（小さい

添え字<sup>①</sup>は、同様の用語が本講の第1～91講に既出であることを示す）は、**社会的企業**<sup>④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>には機会になる。前講に続きJ・エルキントン、P・ハーディガン著「クレイジーパワー」（英治出版）を参考にした。同書は課題として**格差**<sup>⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>に注目する。

1. 整理の枠組（再掲）

格差として**国連**<sup>⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>

の**貧困**<sup>⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>対策

※をもとに10課題をあげる。**人口増加**<sup>④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>、**経済的格差**、**食糧**<sup>⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>問題、**資源問題**、**環境**<sup>⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>問題は前講で触れた。今回は**健康**<sup>⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>問題、**男女**<sup>⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>格差、**教育**<sup>⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>格差、**安全**<sup>⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>保障を考える。

3つの事業モデル（外部資金活用型非営利ベンチャー（第1）外部資金に強く依存）、混合型非営利ベンチャー（第2）事業利益にも関心）、ソーシャル・ビジネス・ベンチャー（第3）寄附が限られ営利組織で運営）がある。（※

参考文献「クレイジーパワー」は2007年発行、国連の対策は当時の「ミレニアム開発目標（MDGs）」<sup>⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>を指す）

2. 課題と取り組みの事例（10課題〈承前〉）

⑥ 健康問題

HIV・エイズ、マラリア、新型肺炎（SARS）、**乳児**<sup>④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>死亡など、健康問題は経済格差、食糧問題、環境問題など、他の課題と広く関わる。ミーチャイ・ウイライワイタヤ「人口と地域開発協会」（タイ、家族計画、事業モデル第2（以下同じ））は、貧困削減、HIV・エイズ、性や生殖に関する健康、マイクロクレジット、環境修復、民主化を合わせて進め、HIV・エイズ新規感染を2004年までに90%削減した。ファズル・アベッド「BRAC」（バングラデシュ、女性の健康と発展、第3）、デヴィ・シエッティ「ナラヤナルダヤラヤ」（インド、医療ケア）、ヴェラ・コルデイロ「ヘナセ」（ブラジル、貧困と子供の健康、第2）などがある。

⑦ 男女格差

男女格差は災害時の死亡率の差など他の課題と関わり、今も生じている。男女の体力差、生物学的、文化的、経済的要因が関わり、結果として医療、教育、ITへのアクセスなどに影響する。呉青「北京農家女性文化発展センター」（中国、女性地位向上と法の重視と利用、第1）、当初はフォード財団、最近では中国政府から資金を得ている。

⑧ 教育格差

格差に対応する上で教育は最大の影響力を持つ。ウエンディ・コップ「ティーチ・フォー・

アメリカ」（アメリカ、低所得地域の学校に教員派遣）、マイケル・ブラウンとアラン・カゼイ「シテイ・イヤー」（アメリカ、若者を公益事業に従事、第1）、ハビエル・ゴンザレス「ABCDESパニヨール」（中南米、読み書きと算数の教授法を親に普及、第2）、各地のMBA学生「ネット・インパクト」（アメリカほか、社会的起業）ほか、「ベアフット・カレッジ」「ファースト・ブック」など草の根の取り組みもある。

⑨ 情報格差

情報技術の普及や高度化は、アクセスの可否によって格差を拡大させている。情報革命から隔離されれば問題解決策を見つける手段を奪うことになる。ロドリゴ・バジジオ「コンピュータ技術民主化委員会」（ブラジル、情報技術で社会的弱者の社会参加促進）などがある。

⑩ 安全保障問題

貧困、飢餓、病気、環境破壊などが全く別の国や地域の安全を脅かす。安全保障には物理的、心理的、社会的、経済的、エネルギー、**水**<sup>⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>、環境など広い側面がある。逆に世界規模の安全保障は10大格差を解消しなければ維持できず、切り離せない。ボーイング社「パイオニア・ヒューマン・サービス」（アメリカ、社会的弱者に住宅斡旋や中毒克服や服役後の**就職**<sup>②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲</sup>支援、第2）などがある。

3. まとめ

次のようになる。①10の課題は互いに原因であり結果である、②1つの課題が多くの課題と関わり、③課題は社会的企業には機会である、④事業主体の性格ごとに3つの事業モデルがある、⑤同じ課題にも各種の事業モデルで対応できる。

## SPRINGシンガポールの皆さん来局

3月28日、SPRINGシンガポール（以下、SPRING）の方々が来訪されました。

SPRINGは、シンガポールの通商産業省の下部機関で、標準化機関でもあり、高齢化社会に関連する標準化について、意見交換をしたいということでした。

ミーティングにおいては、当機構の活動や標準化の状況等について説明しました。

SPRINGからは、シンガポールの高齢化の現状と今後の見通し、標準化の推進体制などについて紹介がありました。

シンガポールでも、高齢化が社会問題となり、シルバー産業の標準化を積極的に進めているとのこと。こうした各国の関連機関とも協力関係をより深め、アクセシブルデザインの標準化をさらに世界へ広げる活動につなげていければと考えています。



（写真上：会議の様子、  
写真下：展示室見学の様子）

## 第13回福祉まつり（東京都千代田区）

3月19日（土）に、千代田区役所のががやきプラザで、「第13回福祉まつり」が開催されました。地元ということもあり、今年で3度目の出展。今年も、参加者が共用品の配慮を採すクイズに答えて景品を受け取るという参加型のブースを設置しました。

共用品のブースにはスタート30分前から人が集まり始め、長蛇の列ができました。「シャンプーのきざみ」は今では共用品の代表例ですが、まだ知らない方も多く、ボディソープの「一直線状の触覚記号」の工夫は、ほとんどの方が知りませんでした。

参加者は約300名。皆さん、これらの工夫を、身近な人に伝えたいと話して下さいました。

当日の様子は、共用品のブログでもご覧いただけます。（<http://www.kyoyohin-news.org/>）



（写真：会場の風景）

## 『誇り・味方・居場所ー私の社会保障論』

日本の保健・医療・福祉を変えるために、現場に密着し、発言を続けるジャーナリスト おおくまゆきこ 大熊由紀子さんが、著書を出されました。

第1部では、ケアについての様々な誤解と問題点、新たな視点を持つことの必要性を、第2部では、社会保障の在り方を、海外事例との比較を通じて説明。「支える人が誇りと喜びをもって働き、支えられる人の誇りが守られる時、日本の社会保障制度は質と継続性を保つことができる。…（中略）…私の社会保障論です。」と結ばれています。

最終章の第3章は、「わが母の地域包括ケア」。大熊さん自身が実母とその暮らしを支えた人達と紡いだ、数々の「えにし」を描いています。

まずは繙ひもといて、本書と「えにし」を結んでいただければ、それぞれの現場での何か解決のヒントが見つかるのではないかと思います。



『誇り・味方・居場所ー私の社会保障論』  
発行：ライフサポート社

## 多くの扉を開けるには…

【事務局長だより】  
星川安之



2015年、共用品推進機構が財団法人から公益財団法人に移行するにあたって、新たに始める事業の一つに「アジア各国と、共用品を通じて連携」があり、一昨年、インドネシア、ミャンマー、ベトナムの視覚障害の当事者団体を訪問した。この3か国を訪れた理由は、下記の2点。1つ目は、既に、中国、韓国とは、国際規格作成の際から連携を結んでいたこと。2つ目は、タイ、シンガポール、マレーシアとは、各国の規格作成機関と連携し、国際標準化の連携をはじめていたためである。今回、前の国々と異なったことは、規格作成の機関ではなく、障害当事者の団体、しかも視覚障害の団体から始めたことである。

理由は、その前に連携した各国規格作成機関から、「共用品・アクセシブルデザインに関する規格を作ることは賛同するが、自分の国の障害のある人、高齢者のニーズを把握していないので、諸手をあげて賛成とはいかない」と、言われたためである。

そういった背景で今回訪問した3か国の視覚障害の当事者団体では、多くのことを学んだ。視覚障害者の割合が、日本よりずっと多いこと、盲人用具を購入する際、日本のように公的補助がないこと、そして、日常生活における不便さ調査が行われていないことを知った。

上記の状況により、当事者団体が、不便に感

じていることの多くは、日本の場合と異なっていたが、多くの視覚障害者の声が集まれば、企業や国を動かすことになることには、大きな共感を持ってもらえ、昨年1年間をかけ、3か国で同じ項目のアンケート調査を行った次第である。

さらに、そのアンケートによって次の扉を開くことができないか、検討しているのが今号で紹介しているベトナムで開催予定の展示会である。展示会がきっかけとなり、各国に必要な人が必要な共用品を入手できるシステムの扉が開くことを願っている。

今号で特集した「調査」は、多くの方々にその意義を認められ、共用品推進機構の前身であるE&Cプロジェクトを、「公益法人」に発展させる大きな力となった。

共用品推進機構が開けたいと思っている扉は数多く、とても機構だけで開けることはできない。

鍵で扉を開ける度に実感しているのは、周りの人や機関からいただく大きな力である。感謝と共に、さらに大切な「鍵」で、多くの扉を開けていきたいと思っている。

### 共用品通信

#### 【イベント】

千代田福祉まつり（3月19日）

第2回ニーズ&アイデアフォーラム（3月6日）

#### 【会議】

第9回理事会（3月4日）

第2回AD本委員会（3月2日）

第8回評議員会（3月23日）

#### 【外部主催会議】

東京オリンピック・パラリンピック 作業部会（4月8日、星川）

東京都心と情報のバリアフリーシンポジウム及びワーキンググループ（4月14日、森川）

第2回高齢者・障害者配慮設計指針—住宅用ドア及び

窓—選定方法 JIS 化原案作成委員会（4月25日、星川）  
東京オリンピック・パラリンピック 第5回接遇・心のバリアフリー作業部会（4月26日、金丸）

#### 【講義・講演】

高齢者ビジネス研究会（3月3日、星川）

東京都荒川区立赤土小学校で共用品の授業（3月5日、森川）

日本音響学会音バリアフリースペシャルセッション講演（3月9日、森川）

特別支援教育専門研修講義（3月10日、星川・森川）

日盲連婦人協議会で講演（3月14日、星川）

東京都立千代田区立九段小学校（3月14日、森川）

日本盲導犬協会 盲学校の児童へ共用品講座（3月29日、森川）

お茶の水UD研究会（4月13日、星川）

アクセシブルデザインの総合情報誌 第102号

2016（平成28）年5月25日発行

“Incl.” vol.16 no.102

The Accessible Design Foundation of Japan

(The Kyoyo-Hin Foundation), 2016

隔月刊、奇数月発行

編集・発行（公財）共用品推進機構

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル2F

電話：03-5280-0020 ファクス：03-5280-2373

Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org

ホームページURL：http://kyoyohin.org/

発行人 鴨志田厚子

事務局 星川安之、森川美和、金丸淳子、松岡光一、田窪友和

執筆 後藤芳一、凌竜也、竹島恵子

デザイン 関戸菜美

表紙写真 公益社団法人リウマチ友の会事務局にて撮影

編集・印刷・製本 サンポートナース(株)

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複写することを承認いたします。その場合は、共用品推進機構までご連絡ください。

上記以外の目的で、無断で複写複製することは著作権者の権利侵害になります。